
わたししーらないと。

羽根羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わたししーらないって。

【Nコード】

N1756BA

【作者名】

羽根羅

【あらすじ】

でもきつとなんとかなるって信じてる。

「大統領、もう決着は見えたと」

「…そうだな」

『おい日本、そろそろ白旗をあげろ』

「武士道とはッ！ 死ぬことと見つけたリイ！ お国のために！
神風隊、ケエツ！」

「馬鹿め…国民まで犠牲にするとは」

「このままでは日本が文字通りの焦土のみです。なんとかしないと」

「しかし肝心の日本があれではな」

「国民に罪はありません！」

「我々の預かる国民にも罪はない。戦争で疲弊しているのが日本だけだと思っな」

「…」

「残念だが助けてやれる余力が無い」

『最後通告だ。日本、降参しろー』

1 (後書き)

二番煎じとか、この部分はおかしいとか。

「総書記、あいつら決着がついたみたいですよ」

「マジか。日本の負けか」

「はい。軍は全滅。無力な国民しか残っておりません」

「マジかあ。息子がデズニールランド行きたがつてんだけどなあ」

「総書記、お電話です」

「もしもし？ あのさー、聞いた？」

「あ、中国さんチース」

「あいつらが日本の領土とっちゃうとお、ウチらが困るわけ」

「そうっすね。マジ困っちゃいますよ」

「日本は言わもすがな…いわがなずも？ なんだけどお、お互い疲れてると思うわけ」

「そりゃあ、やっぱヤバいんじゃないっすか？」

「うん、だからあ、核ミサイル準備してた？」

「え？」

「核爆弾発射できるかって聞いたんだよハゲ」

「え？」

「えじゃねえよこのタコ。核弾頭こっそり用意しとけって言っただる海荒らされてえのか？ わざわざ荒らすような海ないけどコロすぞ」

「サアーセンでした！ 急いで準備します」

「頼むからあ、ね」

「ハイ」

「どうでした？」

「準備してねえつてよ」

「おいおい……。大丈夫ですかね、間に合いそうですか？」

「時間的な問題はないけどお、やっぱり早い方が良いじゃん？」

「ですよー」

「仕事効率悪すぎ。あいつ何考えてんだろ。ウチ、うまくやるように説明してたんだけど」

「世襲したからですかねー」

「いつの話だよ」

『もしもし中国さん』

『あ？　なんだ豚』

『どこに撃つんですか？』

『日本の領土取られたくねーッて話したばっかだろうがよおこのタ

コ！　コ口されてーのか！』

「おこられた」

「でも目標地点だいたいわかりましたね。何発撃ちます？」

「手持ちの半分くらい？」

「日本にですか？」

「日本じゃねーって。話きーてたのかコラ」

「え？ 日本じゃないんですか？」

「え？ そういわれると不安になるんだけど…」

「確認してくださいよ」

「またおこられんのー？ 嫌だよ」

「じゃあどこを狙わせれば良いんですかあ」

「あー、もー！ 仕方ないなあ！」

『もしもし？ 日本でいいんすか？』

『んなわけねーだろ豚野郎！』

「大統領、あの国またなんか実験って言って危ないことしてますよ」
「何をしてるか推測できるか？」

「恐らくあれは核弾頭だとの見方が強いですね。今正確な情報を調べているところです」

「迎撃の準備だけしておけ」

「わかりました」

「おい。なにやってんのか詳しく説明しろ」

「別になんでもないし」

「いいから説明しろ」

「なんでもないって」

「説明しろ」

「ほんとなんでもないんだって！」

「とにかく説明しろ」

「なんでそんなにしつこく聞くの！？ なんでもないって言ってるじゃん！」

「国民が不安がっている」

「情報規制もできねーのか遅れてんなー!!」

「どうしようばれてる」

「マジですか」

「マジ」

「どこまでばれてるんですか？」

「まだ疑われてるレベルだと思う」

「じゃあまだ大丈夫ですね」

「そうかな？」

「そうですよ」

『この前はキレてごめん、あんまり疑うからいけないんだからね？』
『で？』

『絶対に迷惑はかけないから気にしないで』

『直ちに中止しろ』

『えっ、ちょ』

『繰り返す、直ちに中止しろ』

『おっ、お前からそんな命令される権限ないし！』

『各国迎撃体制が整っている…命令される権限？』

『衛星実験だから邪魔だけはすんなよ！』

『核ミサイルであることはわかってる』

『ちち違っし！　なんでだし！』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1756ba/>

わたししーらないっと。

2012年1月8日02時47分発行